AgileWorks R3

サイボウズ ガルーン連携
設定ガイド

R3.3 第 1 版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. はじめに 4
1.1. 本書の目的 4
1.2. 対象読者 4
1.3. 対応サイボウズ製品、バージョン 4
1.4. 対応 AgileWorks バージョン、オプション 4
1.5. 他社商標について 4
2. 連携概要 5
2.1. 実現機能 5
2.2. 連携仕様 6
2.3. 前提条件 7
製品間ドメインの共通化 7
製品間「認証設定」（Cookie 名、認証パスワード）の同期 7
製品間ログインユーザーのキー項目同期 7
モバイル safari で利用する場合の前提条件 8
2.4. ガジェット利用時のユニークログインユーザー数の考え方 8
3. 連携設定 9
3.1. 設定フロー 9
3.2. AgileWorks ログイン認証設定 10
ユーザーサイト用 SSO 設定 10
ガジェット用 SSO 設定 12
ユーザーサイトリンク用 URL 13
ガジェット表示 URL 13
3.3. ガルーン セッション認証設定 15
3.4. ガルーン メニューの設定 16
3.5. ガルーン ポートレットの設定 17
3.6. 設定・動作確認 18
4. 応用設定 19
4.1. 既定のログインを停止する 19
5. トラブルシューティング 20
5.1. 認証情報のトレース 20
認証成功時のデバッグログ 21
デバッグログが出力されない 21
デバッグログに「Cookie value is empty」 21
デバッグログに「Invalid hash」 21
デバッグログに「ユーザー引当項目名=○○」まで出力されるが、「fail」となる 21

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. はじめに

1.1. 本書の目的

本書は、サイボウズ オープン統合認証 ver.2 を利用して、ガルーンから AgileWorks へシングルサインオン連携（以下、SSO 連携と略）するための手順を説明します。

1.2. 対象読者

本書は、AgileWorks のログイン認証機能に関する基本知識を持つ方を対象としています。
ログイン認証に関する詳細はガイド資料「Aw02-ログイン認証ガイド」「AwOp01-SSO 設定ガイド」を参照してください。

1.3. 対応サイボウズ製品、バージョン

オープン統合認証 ver.2 に対応しているサイボウズ　ガルーンとの SSO 連携を前提としています。
本書記載の時点では、サイボウズ　ガルーン 4.0.x/4.2.x/4.6.x/4.10.x/5.0.x/5.5.x/5.9.x/5.12.x/6.0.0/6.0.1/6.0.2/6.0.3 との SSO 連携が確認できております。
最新情報はエイトレッド製品サイト(https://www.atled.jp/agileworks/functions/garoon_detail)をご確認ください。

1.4. 対応 AgileWorks バージョン、オプション

本書で説明するサイボウズ オープン統合認証 ver.2 連携機能を利用するには、「サイボウズ ガルーン連携」オプションが必要です。
詳細につきましては、AgileWorks 販売代理店までお問い合わせください。

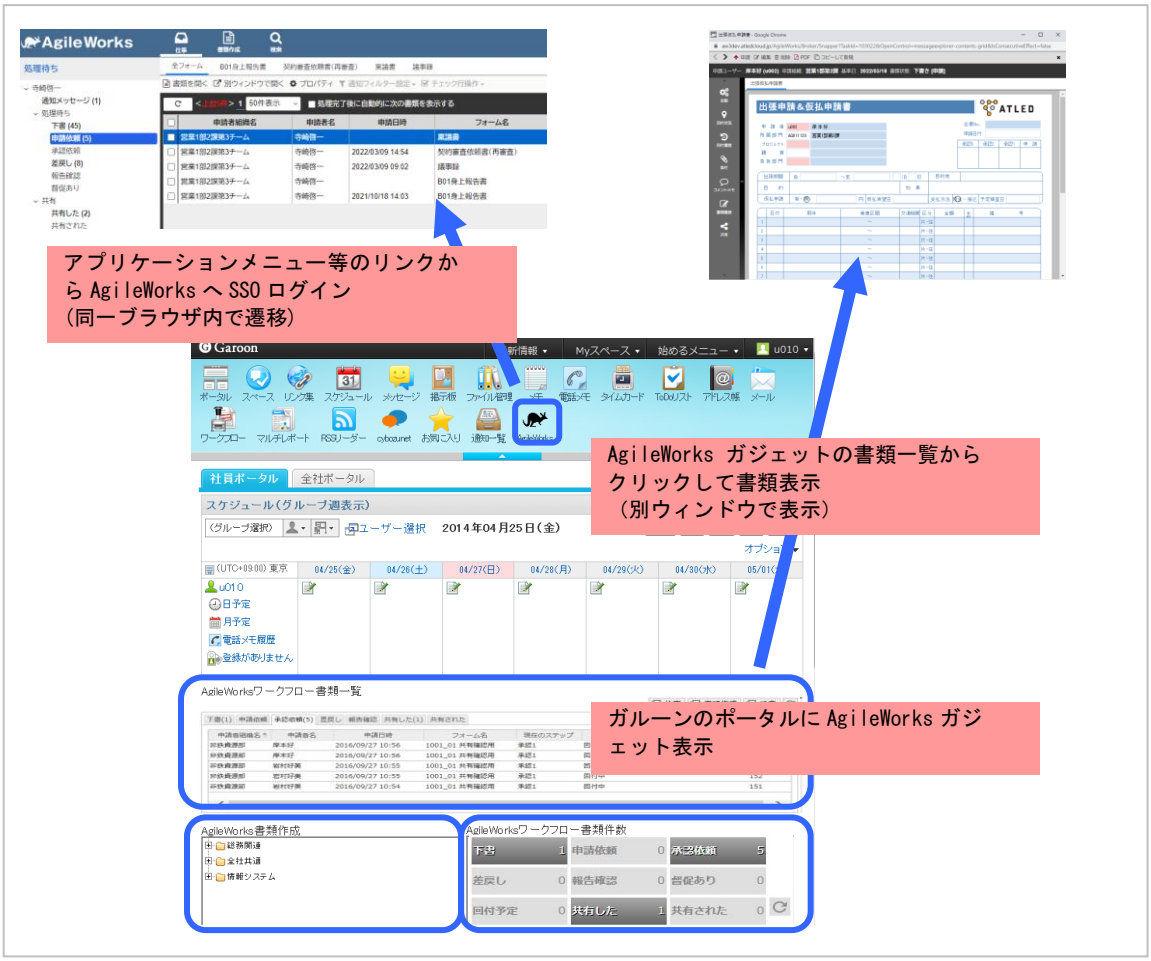
1.5. 他社商標について

サイボウズ、Cybozu、ガルーンはサイボウズ株式会社の登録商標です。
その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本書では、©、®、(TM)の表示を省略しています。ご了承ください。

2. 連携概要

2.1. 実現機能

AgileWorks がガルーンと SSO 連携すると以下の機能が実現できるようになります。

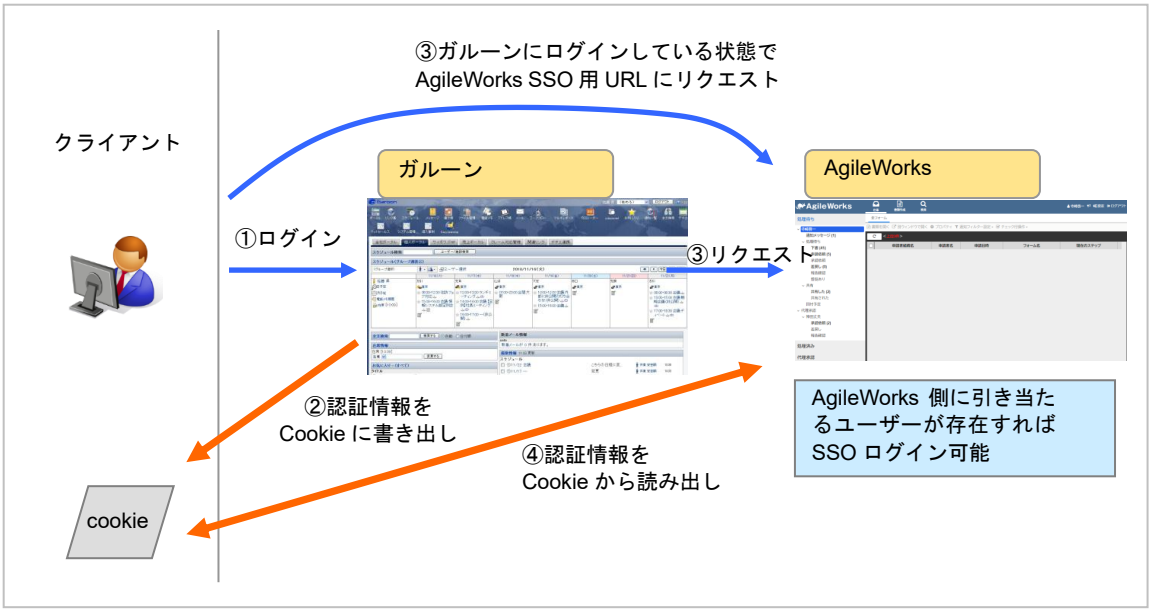


2.2. 連携仕様

AgileWorks とガルーンの連携には、オープン統合認証 ver.2 というサイボウズ社の仕様に準拠しています。

オープン統合認証 ver.2 とは、この仕様に対応しているサイボウズ製品または仕様提示されている他社製品とで認証情報を共有する機能です。オープン統合認証 ver.2 を使用すると、サイボウズ製品に一度ログインすれば、再入力せずに他の製品にログインでき、AgileWorks の「サイボウズ ガルーン連携」オプションではこの仕様に準拠した方式を採用しています。

▼ オープン統合認証 ver.2 による SSO の仕組み



※ オープン統合認証 ver.2 における Cookie のセキュリティについて
ガルーンと AgileWorks 間で、
・共通ドメイン(URL)利用
・共通の Cookie 名、妥当性検証用の認証パスワード設定
を行う事によって、別アプリケーション間で共通の Cookie を閲覧可能としています。

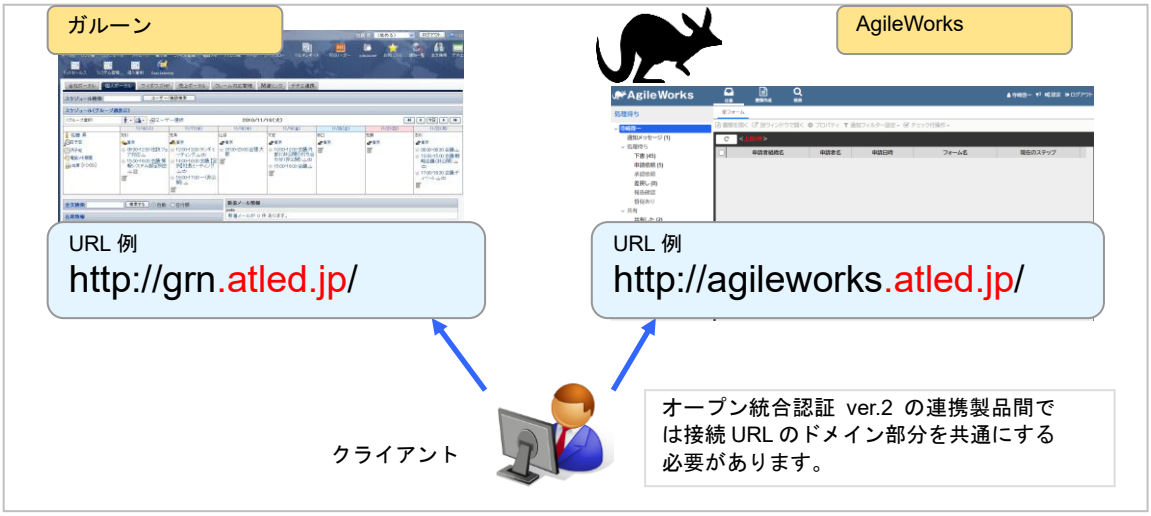
> ⚠ 注意事項
> ガルーンのバージョンによってはオープン統合認証 ver.2 への対応有無が異なります。
> 対応バージョンについては、「対応サイボウズ製品、バージョン」を参照してください。

2.3. 前提条件

オープン統合認証 ver.2 による製品間連携には、下記の前提条件があります。

製品間ドメインの共通化

オープン統合認証 ver.2 では、サイボウズが認証した情報を Web ブラウザの Cookie に書き出し、AgileWorks がその Cookie から認証情報を読み出すことで SSO を実現しています。
Cookie はセキュリティやプライバシーの観点から、Cookie を発行したドメイン内または Cookie に書き出された domain 属性で指定された範囲内でのみ読み出すことができる為、連携するガルーンと AgileWorks の接続 URL は、同一ドメインにする必要があります。

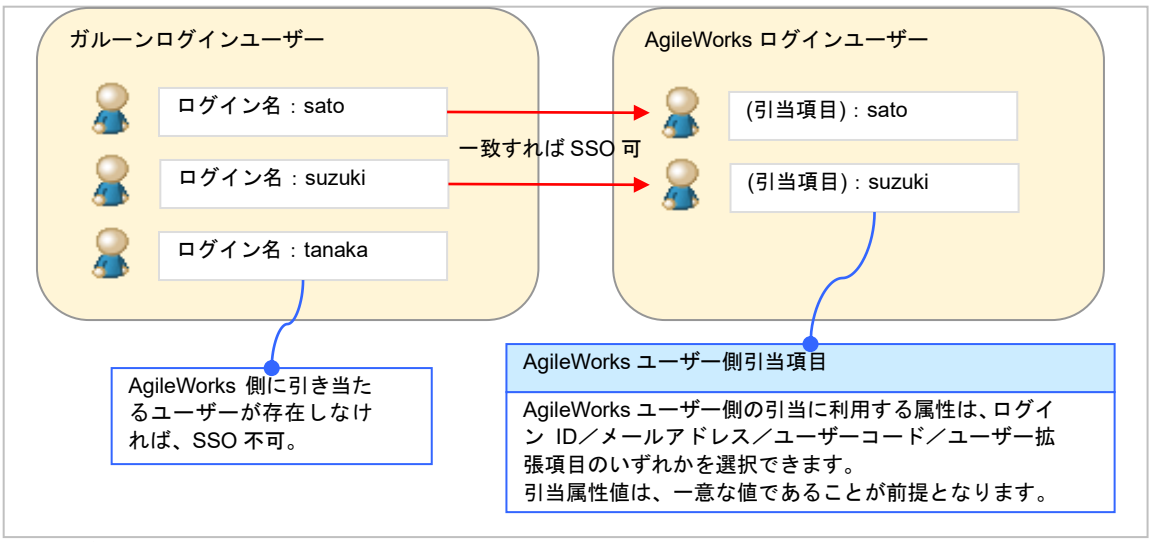


製品間「認証設定」（Cookie名、認証パスワード）の同期

ガルーンの「セッション認証設定」における「Cookie 名」「認証パスワード」と、
AgileWorks の「ログイン認証設定(オープン統合認証 ver.2)」における「Cookie 名」「認証パスワード」
の設定値を一致させる必要があります。詳しい設定手順は「連携設定」章を参照してください。
※ 「認証パスワード」とは、Cookie 情報を読み出す際の妥当性検証キーとして利用します。各ユーザーのパスワードとは異なる概念なので混同しないよう注意してください。

製品間ログインユーザーのキー項目同期

ガルーンのユーザーが、AgileWorks 側のどのユーザーかを引当・識別するために、ガルーン側ユーザーの「ログイン名」と AgileWorks ユーザーの属性情報（ログイン ID／メールアドレス／ユーザーコード／ユーザー拡張項目のいずれか）を合わせる必要があります。
AgileWorks ユーザーのどの属性と引き当てるかについては、AgileWorks「ログイン認証」設定画面から設定します。
（設定手順は「AgileWorks ログイン認証設定」を参照してください）



※ ユーザーの「パスワード」は同期する必要ありません。

モバイルsafariで利用する場合の前提条件

モバイル Safari にてガジェットを表示する場合、Safari の設定からサードパーティークッキーの利用を許可しておく必要があります。

2.4. ガジェット利用時のユニークログインユーザー数の考え方

ガジェットにてログイン（SSO）を行った直後は AgileWorks のライセンスにてカウントされる同時ログインユーザー数にはカウントされません。
ガジェットから「ユーザーサイト」や「書類（ドキュメントビューア）」を開いたタイミングで同時ログインユーザー数にカウントされるセッションに変化します。

その後、ユーザーサイトや書類の操作を続けている限り、同時ログインユーザー数にカウントされ続けますが、
必要な操作（書類の申請や承認など）を終え、ガジェットのリロード、または自動リロードのみの時間が一定時間続くとそのセッションはライセンスの同時ログインユーザー数にカウントされなくなります。
※ガジェットにログインした直後と同じ扱いに戻ります。
　R3.1.1a 以降での動作です。

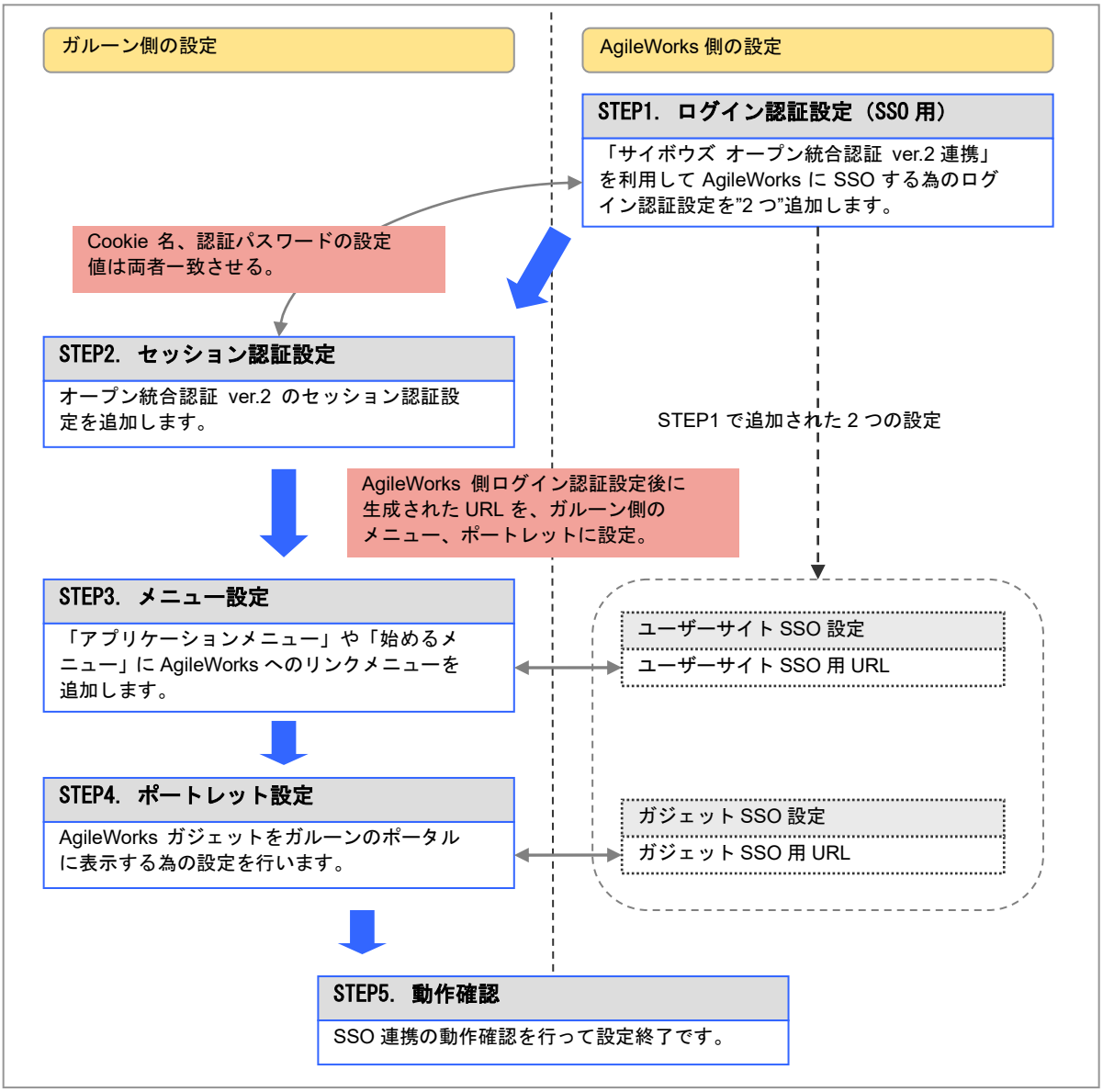
本動作の詳細につきましてはサポートサイトの「ガジェット利用時のセッションについて」をご参照ください。

3. 連携設定

AgileWorks とガルーンの SSO を行う際の設定手順について説明します。

3.1. 設定フロー

連携設定の流れは下図の通りです。



3.2. AgileWorks ログイン認証設定

AgileWorks 管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【認証・セキュリティ】-【ログイン認証】にアクセスし、「サイボウズ オープン統合認証 ver.2 連携」用のログイン認証設定を追加します。



下記手順から、ユーザーサイト用 SSO 設定と、ガジェット表示用 SSO 設定の 2 つの設定を追加します。

ユーザーサイト用SSO設定

ガルーンのリンクから、AgileWorks ユーザーサイトへ SSO する為のログイン認証を設定します。

▼「基本」タブの設定



設定項目

項目名	選択 / 入力値
コード	後から識別する為の任意コードを入力。 例）grn_usersite ※ ここで指定したコードは、連携用 URL に利用されますので、 grn_usersite と指定しておくとマニュアル通り読み進めることができます。
名称	後から識別する為の任意名称を入力。 例）ガルーン用ユーザーサイト SSO
対象アプリケーション	"ユーザーサイト"を選択。
利用状態	"利用可能"にします。

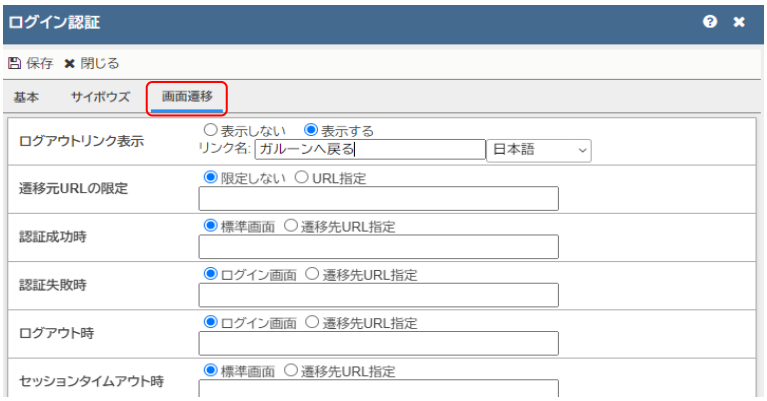
▼「サイボウズ」タブの設定



設定項目

項目名	選択 / 入力値
Cookie 名	"CB_OPENAUTH"のままで構いません。 ▼ **重要** ガルーンが出力した Cookie 情報を読み出す際に利用します。 「ガルーン セッション認証設定」章で指定する Cookie 名と同じ値を指定してください。
認証パスワード	任意のパスワードを入力 例） agileworks ▼ **重要** ガルーンが出力した Cookie 情報を読み出す際の妥当性検証キーとして利用します。 「ガルーン セッション認証設定」章で指定する認証パスワードと同じ値を指定してください。
認証パスワード（確認用）	確認用に再度認証パスワードを入力。
AgileWorks ユーザーとの引当方法 →対象	ガルーン側ユーザーの「ログイン名」と AgileWorks ユーザーのどの属性情報（ログイン ID／メールアドレス／ユーザーコード／ユーザー拡張項目のいずれか）を引き当てるか選択します。

▼「画面遷移」タブの設定



設定項目

項目名	選択 / 入力値
ログアウトリンク表示	AgileWorks ユーザーサイト右上の「ログアウト」リンク表示有無を指定。 必要に応じて「リンク名」を指定します。 ▼ 推奨設定 上画像のように、リンク名を"ガルーンへ戻る"等と変更しておくとログアウト後にガルーンへ戻ることを明示できます。(文言は利用するガルーンに合わせて適宜変更してください)
遷移元 URL の限定	遷移元 URL を限定する場合は、URL を指定します。
認証失敗時	ログイン認証失敗時の遷移先を指定します。 ▼ 推奨設定 例えば、ガルーン側のみ存在するユーザーが AgileWorks に入れない場合等を考慮して「ガルーンからの SSO 認証が許可されていません」等と表示する画面(HTML)を用意した上で、「認証失敗時の遷移先」には専用エラー画面 URL

	を指定します。
ログアウト時	AgileWorks ユーザーサイト右上の「ログアウト」を実行した時の遷移先を指定します。 ▼ 推奨設定 上画像のように、ガルーンの TOP ページ URL を指定しておくとログアウトするとガルーンに戻れます。
セッションタイムアウト時	セッションタイムアウト時の遷移先を指定します。 ▼ 推奨設定 ガルーンの TOP ページ URL を指定します。 但し、セッションタイムアウト後の最初のアクセスは AgileWorks ユーザーサイト画面上に「セッションタイムアウトしました」エラーメッセージが表示されます。

ガジェット用SSO設定

ガルーンのポータルに、AgileWorks 側ガジェットを表示する為のログイン認証設定手順を説明します。

▼「基本」タブの設定

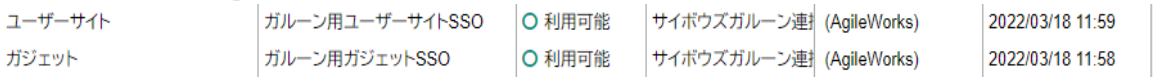


設定項目

項目名	選択 / 入力値
コード	後から識別する為の任意コードを入力。 例）grn_gadget ※ ここで指定したコードは、連携用 URL に利用されますので、 grn_gadget と指定しておくとマニュアル通り読み進めることができます。
名称	後から識別する為の任意名称を入力。 例）ガルーン用ガジェット SSO
対象アプリケーション	"ガジェット"を選択。
利用状態	"利用可能"にします。

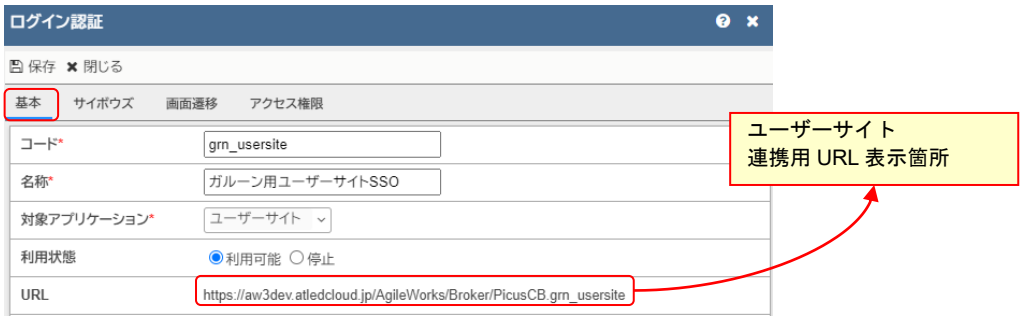
※「サイボウズ」タブ、「画面遷移」の設定は、「ユーザーサイト用 SSO 設定」と同じ設定にしてください。

ユーザーサイト用 SSO 設定と、ガジェット表示用 SSO 設定の 2 つの設定を追加すると、
「ログインユーザー設定」の一覧には下記 2 つの設定が表示されます。



保存したログイン認証設定画面の[基本]タブを確認するとシングルサインオン用の URL を確認できます。

ユーザーサイトリンク用URL

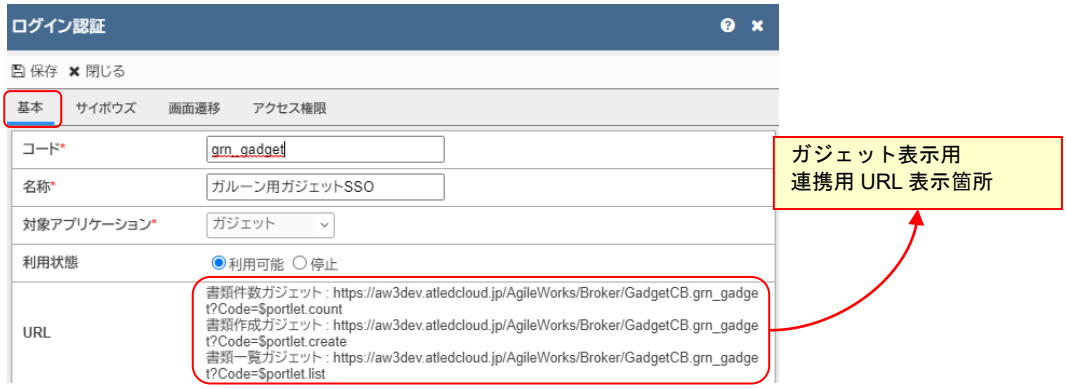


http(s)://{Server}/{Context}/Broker/PicusCB.{Code}

- {Server} : AgileWorks の Web サーバー接続用 FQDN
- {Context} : インストール時に指定したコンテキスト名。（初期設定通りインストールすると AgileWorks）
- {Code} : ログイン認証設定の「コード」

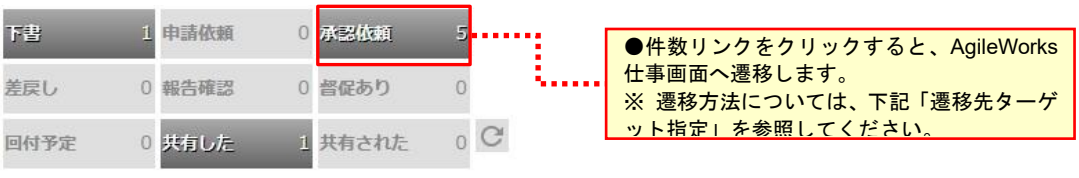
※ マニュアル通りの設定手順の場合（ログイン認証コード：grn_usersite）
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/PicusCB.grn_usersite

ガジェット表示URL



▼ 書類件数ガジェット
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetCB.{Code}?Code=$portlet.count&aw_target=_top

※ マニュアル通りの設定手順の場合（ログイン認証コード：grn_gadget）
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetCB.grn_gadget?Code=$portlet.count&aw_target=_top



遷移先ターゲット指定について
書類件数ガジェットでは、件数リンクをクリックすると AgileWorks 仕事画面に遷移します。
遷移時の target は、デフォルトでは_blank になっていますが、ガジェット URL のパラメータ「aw_target」にリンクターゲット(target 属性)を指定することで任意のターゲットに遷移できるようになっています。
ガルーンでは、アプリケーションメニューからの遷移先が同一ブラウザ内になっている為、遷移方法を統一する為に aw_target=_top と指定するようにします。

▼ 書類作成ガジェット
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetCB.{Code}?Code=$portlet.create

※ マニュアル通りの設定手順の場合（ログイン認証コード：grn_gadget）
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetCB.grn_gadget?Code=$portlet.create



▼ 書類一覧ガジェット
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetCB.{Code}? Code=$portlet.list&aw_target=_top

※ マニュアル通りの設定手順の場合（ログイン認証コード：grn_gadget）
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetCB.grn_gadget? Code=$portlet.list&aw_target=_top

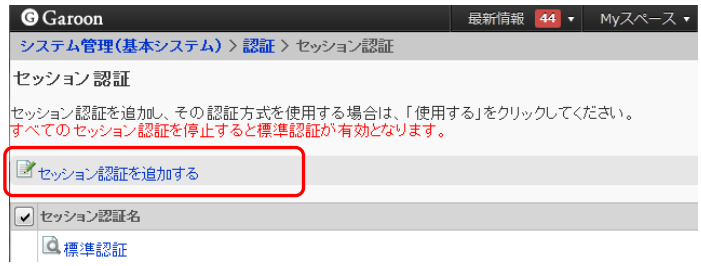


申請者組織名	申請者名	申請日時	フォーム名	現在のステップ	書類状態	書類管理番号	書類ID
非鉄資源部	岸本好	2016/09/27 10:56	1001_01 共有確認用	承認1	回付中		155
非鉄資源部	岸本好	2016/09/27 10:56	1001_01 共有確認用	承認1	回付中		154
非鉄資源部	岩村好美	2016/09/27 10:55	1001_01 共有確認用	承認1	回付中		153
非鉄資源部	岩村好美	2016/09/27 10:55	1001_01 共有確認用	承認1	回付中		152
非鉄資源部	岩村好美	2016/09/27 10:54	1001_01 共有確認用	承認1	回付中		151

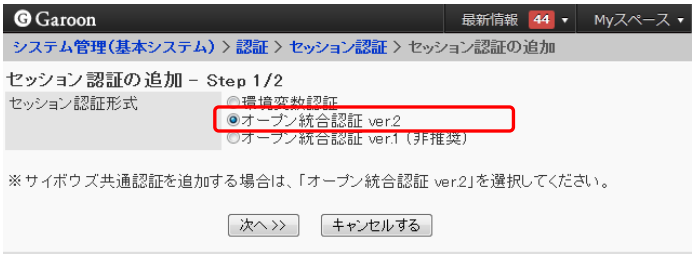
本書の URL 例では、「書類件数ガジェット」「書類一覧ガジェット」の URL にパラメータ aw_target=_top を指定しています。それ以外にもガジェット URL として受け付けているパラメータがありますので、別紙「ログイン認証／SSO ガイド」を参照の上、適宜調整してください。
また、ガジェットからの書類表示は、AgileWorks ユーザーサイトの仕事・検索画面からの表示とは異なる点がありますので、ガジェットからの書類表示方式についても別紙「ログイン認証／SSO ガイド」を参照してください。

3.3. ガルーン セッション認証設定

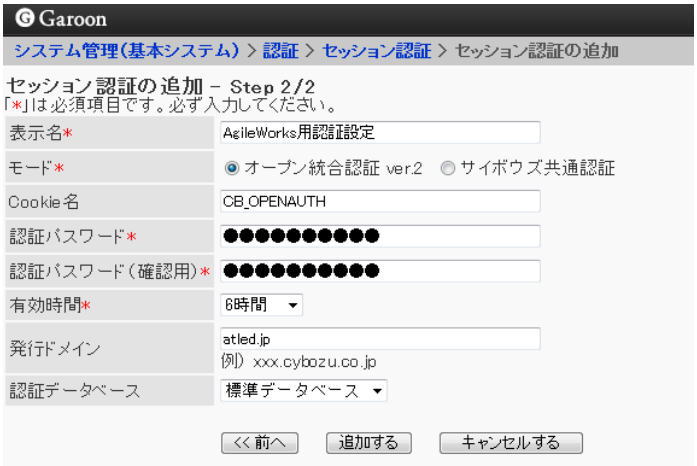
ガルーンの管理者アカウントにて、「システム管理」画面よりセッション認証設定を行います。
本書の画面イメージは「ガルーン 3」を利用しています。
ご利用されているガルーンの設定画面に合わせて、適宜読み替えて設定を進めてください。



「基本システムの管理」→「認証」→「セッション認証」画面へ遷移し、「セッション認証を追加する」をクリックします。



「オープン統合認証 ver.2」を選択し、「次へ>>」をクリックします。



セッション認証の追加画面より、下記「設定項目」の要領で設定を行い、「追加する」をクリックします。

■ 重要
「Cookie 名」「認証パスワード」は、AgileWorks 側ログイン認証設定と合わせる必要があります。

▼ 設定項目

項目名	選択 / 入力値
表示名	後から識別する為の任意名称を入力。 例）オープン統合認証 ver.2
モード	「オープン統合認証 ver.2」を選択。
Cookie 名(＊)	「CB_OPENAUTH」のままで構いません。 ※変更した場合、AgileWorks 側「ログイン認証設定」でも同じ Cookie 名を指定する必要があります。
認証パスワード(＊)	「AgileWorks ログイン認証設定」で指定したパスワードを入力。 例） agileworks ※ 認証パスワードは、ガルーンが書き出した Cookie 情報を AgileWorks が読み出す際の復号キーとして利用します。AgileWorks 側「ログイン認証設定」と同じパスワードを指定する必要があります。
認証パスワード（確認用）	認証パスワードと同じ値を確認用に入力
有効時間	6 時間 ※ AgileWorks 側「セッションタイムアウト時間」より大きい値を指定することを推奨します。
発行ドメイン	ガルーンおよび AgileWorks で共通するドメイン名をピリオド(.)開始で入力。 例）.atled.jp

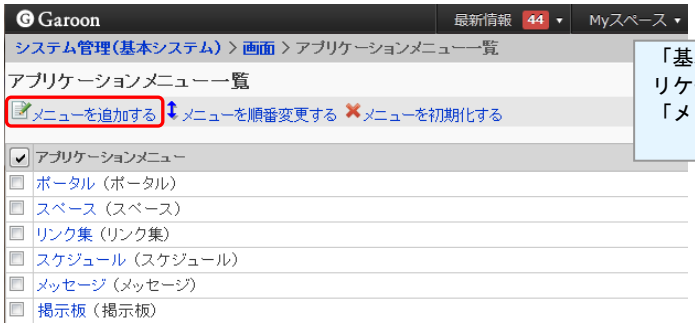
	※ 発行ドメインの補足 この設定値は、Cookie の「domain」属性に出力される値です。 Cookie の仕様では、「domain」属性と後方一致する接続 URL 内であれば Cookie の情報を読み込むことができますので、ガルーンと AgileWorks の接続 URL が後方一致し、かつピリオド(.)で開始する値を指定してください。
認証データベース	利用するデータベースを選択。

※ (＊)の項目は、AgileWorks 側「ログイン認証」設定と同じ値を指定する必要があります。

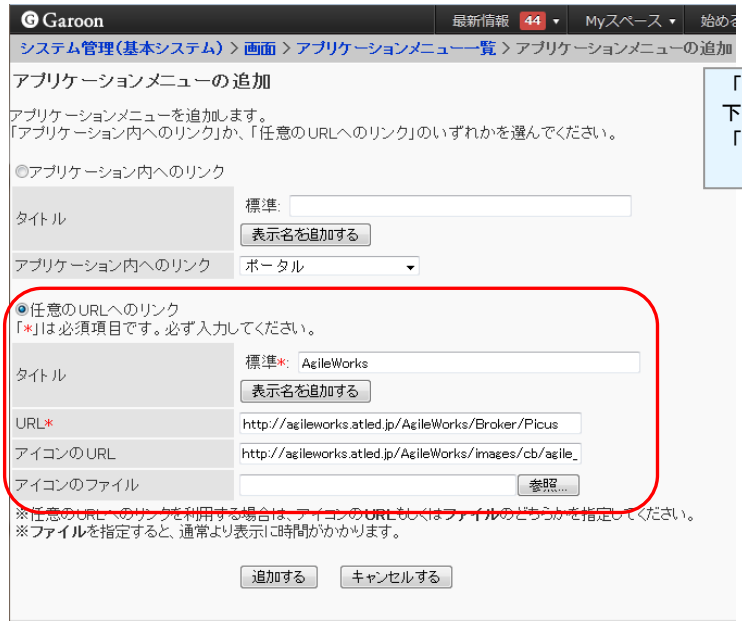
3.4. ガルーン メニューの設定

ガルーンの管理者アカウントにて、「システム管理」画面よりメニュー設定を行います。
本書の画面イメージは「ガルーン 3」を利用しています。
ご利用されているガルーンの設定画面に合わせて、適宜読み替えて設定を進めてください。

ガルーンのアプリケーションメニューに追加する手順を説明します。



「基本システムの管理」→「画面」→「アプリケーションメニュー一覧」画面へ遷移し、「メニューを追加する」をクリックします。



「任意の URL へのリンク」を選択し、下記「設定項目」の要領で設定を行い、「追加する」をクリックします。

▼ 設定項目

項目名	選択 / 入力値
タイトル	アプリケーションメニューに表示する為の任意名称を入力。 例）AgileWorks
URL	「ユーザーサイトリンク用 URL」で決定した URL を入力。
アイコンの URL	AgileWorks が標準で用意しているアイコンを利用する場合は、下記形式の URL を指定します。 http(s)://{Server}/{Context}/images/cb/agile_logo32_simple.gif ・{Server} : AgileWorks の Web サーバー接続用 FQDN または IP ・{Context} : AgileWorks インストール時に指定したコンテキスト名。 （初期設定通りインストールすると AgileWorks） 独自アイコンを利用するには、該当 URL またはファイルを指定します。

※ 始めるメニュー、リンク集などに追加することもできますので、その際も、「ユーザーサイトリンク用 URL」を URL に設定してください。

3.5. ガルーン ポートレットの設定

ガルーンの管理者アカウントにて、「システム管理」画面より設定を行います。
本書の画面イメージは「ガルーン 3」を利用しています
ご利用されているガルーンの設定画面に合わせて、適宜読み替えて設定を進めてください。

ポートレット設定手順について説明します。

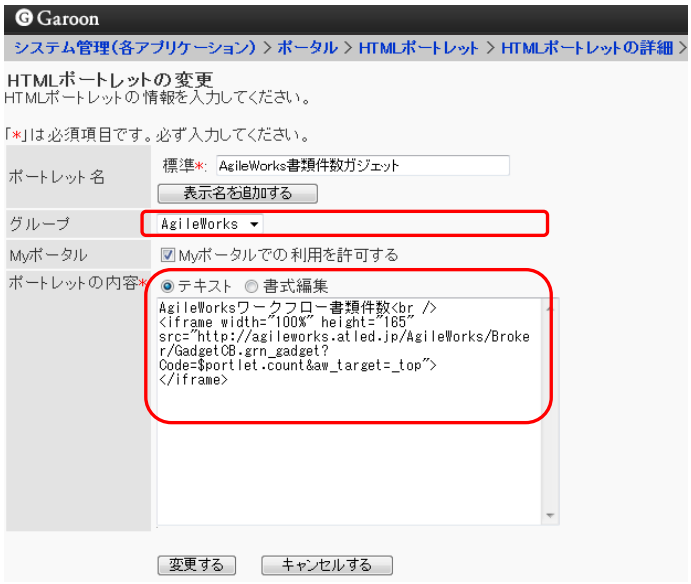
1) ガルーンの管理者アカウントにて、「システム管理」画面に入ります。

2) ポートレットグループを作成します。(任意)
「各アプリケーションの管理」タブ→「ポータル」→「ポートレットグループ」→「ポートレットグループを追加する」画面へ遷移し、AgileWorks ポートレットグループを追加します。
名称には「AgileWorks」等と指定してください。

3) HTML ポートレットの追加
「各アプリケーションの管理」タブ→「ポータル」→「ファイルからの読み込み」→「HTML ポートレットの読み込み」画面へ遷移し、AgileWorks 製品モジュール内に同梱されている「installer/dist/cb/html_portlet.xml」をアップロードします。

読み込みが完了すると、「AgileWorks 書類件数ガジェット」「AgileWorks 書類作成ガジェット」「AgileWorks 書類一覧ガジェット」の 3 つが追加されます。

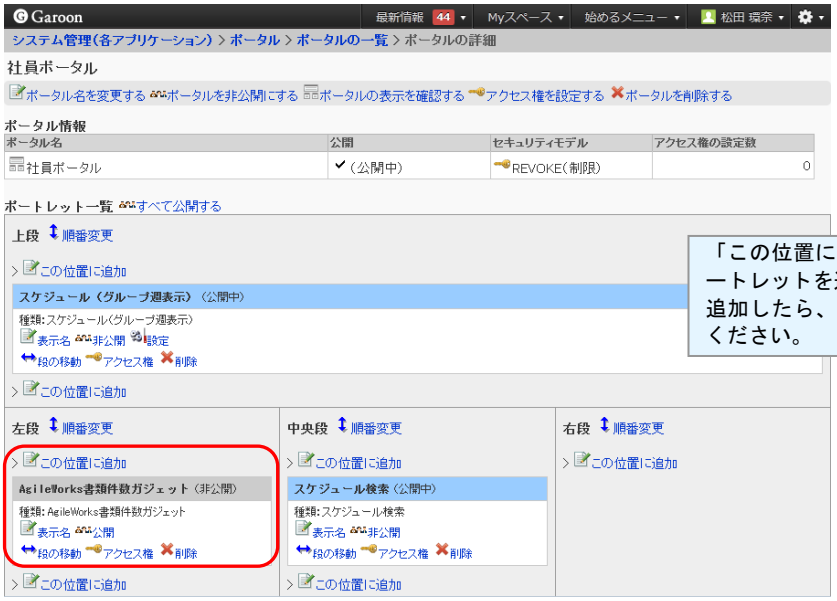
4) HTML ポートレットの設定変更
「各アプリケーションの管理」タブ→「ポータル」→「HTML ポートレット」画面へ遷移し、
各 HTML ポートレット名をクリック→「変更」をクリックして、グループ名とポートレットの内容を変更します。



▼ 設定変更項目

項目名	選択 / 入力値
グループ	AgileWorks 用に用意したポートレットグループを選択します。
ポートレットの内容	iframe の URL(src)部分を「ガジェット表示用 URL」で決定した URL に変更します。 マニュアル通り設定している場合は、agileworks.atled.jp となっている部分を連携先 AgileWorks の FQDN に置き換えるだけとなります。 必要に応じて表示イメージを確認しながら、下記の HTML 修正を行ってください。 ・ポートレット件名部分の HTML 変更 ・iframe の幅(width)、高さ(height)変更

5)　ポータルへのポートレット割当
「各アプリケーションの管理」タブ→「ポータル」→「ポータルの一覧」画面へ遷移し、
4)で追加したポートレットを配置したいポータルに対して、ポートレットの割当（追加）を行います。



3.6.　設定・動作確認

設定と動作確認方法について説明します。

確認カテゴリ	確認項目
接続 URL の確認	ガルーン・AgileWorks への接続 URL はドメイン部分が一致しているか？ ※「製品間ドメインの共通化」章を参照
認証設定の確認	ガルーンの「セッション認証設定」と AgileWorks の「ログイン認証設定」間で、 ・Cookie 名 ・認証パスワード の認証設定が一致しているか？ ※「製品間ログインユーザーのキー項目同期」章を参照
（動作確認前の作業） ユーザー同期の確認	動作確認を行う前に、確認に利用するユーザーをガルーン・AgileWorks 間で同期してください。 ※「製品間ログインユーザーのキー項目同期」章を参照
（動作確認） リンクからの遷移を確認	アプリケーションメニューから AgileWorks へ SSO で遷移できるか？
（動作確認） ガジェット表示を確認	ポータルで AgileWorks の各ガジェットが表示できるか？ 下記も合わせて確認します。 ・書類件数ガジェットの件数リンクからの AgileWorks 仕事画面表示 ・書類作成ガジェットからの書類表示 ・書類一覧ガジェットからの書類表示

連携に失敗する場合は「認証情報のトレース」章を参考に、原因切分を実施してください。

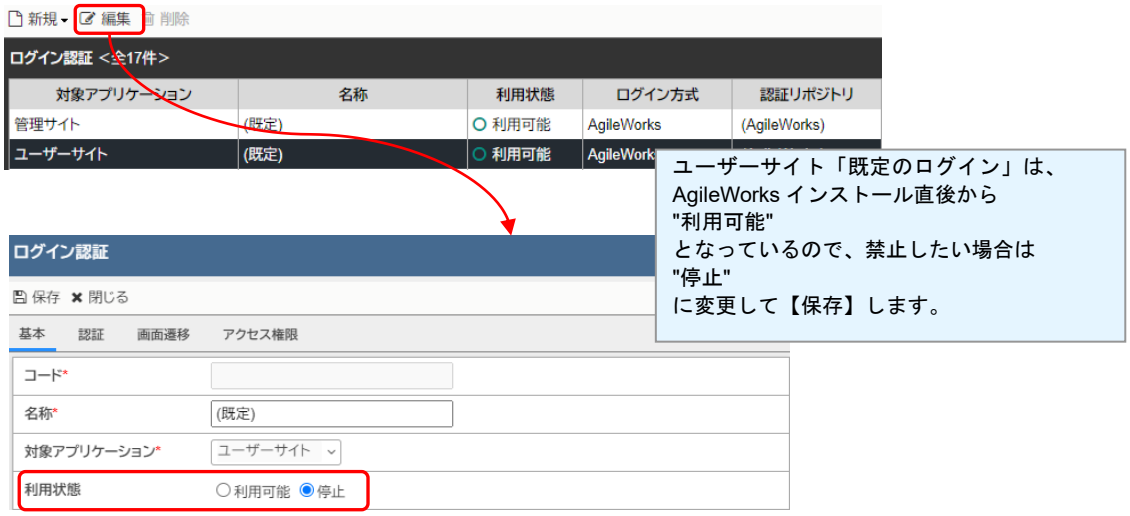
4. 応用設定

4.1. 既定のログインを停止する

ガルーンからの SSO 連携を有効にした場合、既定のログインを利用したくないケースの設定手順を説明します。
（本章の説明は、任意の設定手順です。）

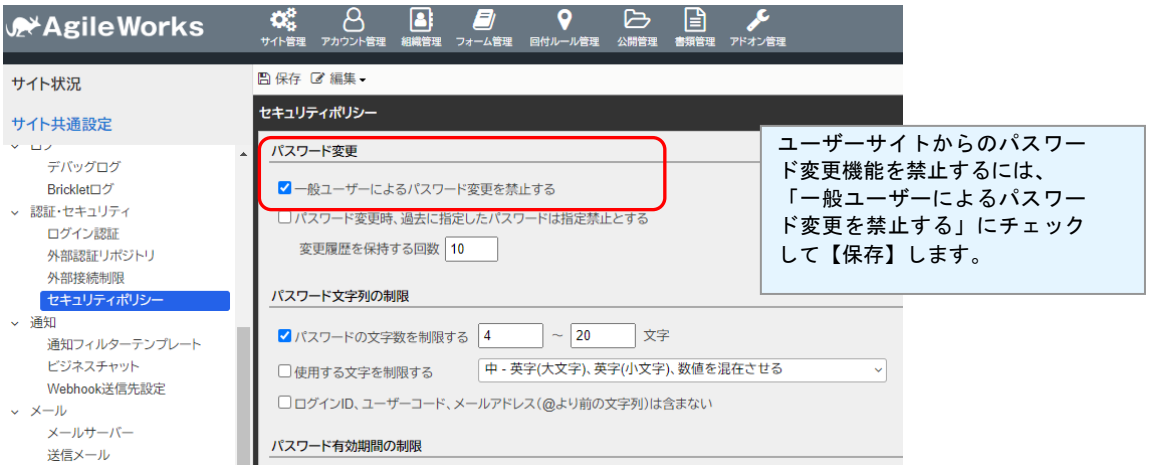
1. 既定のログインを停止する

▼ AgileWorks 管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【認証・セキュリティ】-【ログイン認証】



2. 一般ユーザーによるパスワード変更を禁止する

▼ AgileWorks 管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【認証・セキュリティ】-【セキュリティポリシー】



5. トラブルシューティング

「サイボウズ オープン統合認証 ver.2 連携」におけるトラブルシューティング方法について説明します。

5.1. 認証情報のトレース

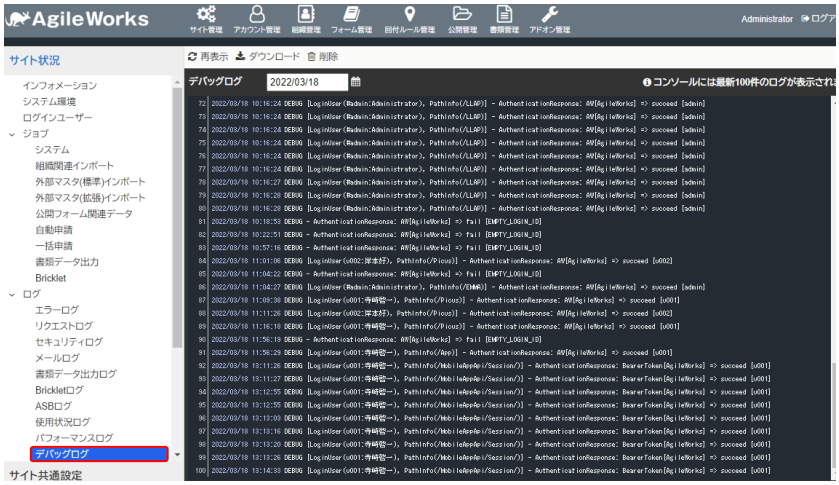
認証に失敗する場合は、AgileWorks 側のデバッグログ「認証情報のトレース」を有効にして、どこで失敗しているか切分確認を行います。

※　クラウド環境ではデバッグログの確認は行えません。

▼ デバッグログ設定
管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【ログ】-【デバッグログ】



▼ デバッグログの確認
管理サイト【サイト管理】-【サイト状況】-【ログ】-【デバッグログ】



> ⚠ 注意事項
> デバッグログは、連携確認時にのみ利用し、確認が終わったら忘れず無効にしてください。
> 有効状態のまま実運用を行うと、デバッグログの肥大化や全体的な処理速度低下のリスクがあります。
> なお、「サイボウズ オープン統合認証 ver.2 連携」を設定した状態で「認証情報のトレース」を有効にすると、AgileWorks の画面にアクセスする度にデバッグログが出力されますが、デバッグ出力時に毎回認証しているわけではありません。

認証成功時のデバッグログ

▼ 認証成功時のデバッグログ出力例

```
DEBUG - CybozuOpenAuthRepository: LoginId=sato
DEBUG - [LoginUser(sato:佐藤　昇), PathInfo(/GadgetCB.grn_gadget)]　- AuthenticationResponse: Cybozu[認証リポジトリコード] => succeed
```

・　＜認証リポジトリコード＞部には、AgileWorks 側認証リポジトリコードが出力され、標準では AgileWorks となります。

上記出力例では、ログイン名「sato」が AgileWorks 側に認証成功したことになります。

デバッグログが出力されない

デバッグログを設定したにも関わらず、「サイボウズ オープン統合認証 ver.2 連携」に関するデバッグログが出力されていない場合は、ガルーン側から AgileWorks に対してリクエストが飛んできていません。
ガルーン側に設定した AgileWorks へのリンクまたはガジェット設定がされていないか、設定した AgileWorks 側 URL が誤っている可能性があります。

デバッグログに「Cookie value is empty」

▼ デバッグログ出力例

```
DEBUG - CybozuOpenAuthRepository: Cookie value is empty.
DEBUG - AuthenticationResponse: Cybozu[認証リポジトリコード]　=> fail
```

ガルーンが出力した Cookie を AgileWorks で読み込むことができない状況です。
以下の情報を切り分けしてください。

・　ガルーンと AgileWorks への接続 URL は同一ドメインとなっているか？
・　ガルーンの「セッション認証」設定で指定した「発行ドメイン」が正しいか？
・　ガルーンの「セッション認証」設定で指定した「Cookie 名」と、AgileWorks「ログイン認証」設定で指定した「Cookie 名」が合っているか？

デバッグログに「Invalid hash」

▼ デバッグログ出力例

```
DEBUG - CybozuOpenAuthRepository: Invalid hash. [XXXXXXX]
DEBUG - AuthenticationResponse: Cybozu[認証リポジトリコード]　=> fail
```

ガルーンが出力した Cookie を AgileWorks で読み込むことはできるが、内容を復号できない状況です。
以下の情報を切り分けしてください。

・　ガルーンの「セッション認証」設定で指定した「認証パスワード」と、AgileWorks「ログイン認証」設定で指定した「認証パスワード」が合っているか？

デバッグログに「ユーザー引当項目名=〇〇」まで出力されるが、「fail」となる

▼ デバッグログ出力例

```
DEBUG - CybozuOpenAuthRepository: [ユーザー引当項目名]=suzuki
DEBUG - AuthenticationResponse: Cybozu[認証リポジトリコード]　=> fail
```

・＜ユーザー引当項目名＞部には、AgileWorks 側ユーザーの引当項目名が出力され、ログイン ID を引当項目としている場合は LoginId=〇〇と出力されます。

ガルーンにログインしているユーザーが AgileWorks 側に存在しないか、複数存在しています。
上記デバッグログ出力例では、「suzuki」が AgileWorks 側のユーザー引当項目に合致するユーザーが存在しないか、複数存在する状態なので、以下の情報を切り分けしてください。

・　「ユーザー引当項目名=〇〇」と出力されているユーザーが、AgileWorks 側に存在するか？
・　「ユーザー引当項目名=〇〇」と出力されているユーザーが、AgileWorks 側に複数存在していないか？

※ ユーザーコード、ログイン ID 以外で引当している場合は、ユーザーが同時期に複数存在するケースが起こりえます。